

# 化学工業日報

2021年(令和3年)3月12日(金曜日)

# オートミルクパウダー 拡販

## ゴードー、ヘルシー訴求

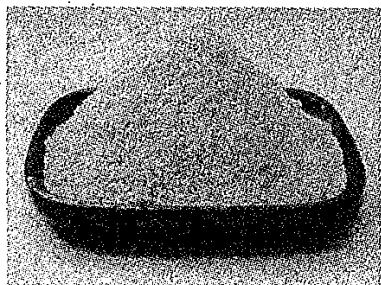
ゴードーは、食品事業部でオートミルクパウダーを主軸商材として育成する。主に穀物として扱われる燕麥(オーツ麦)を糖化した液体原料「オートミルク」を粉末化したもので、4月に自社ブランドで上市する。すでに食品メーカーを中心に複数社でサンプルワークを実施、今後用途開拓を進め拡大していく。欧米を中心に流行の兆しをみせるヘルシー飲料だが、国内では認知度がまだ低く高付加価値のある食材であることから市場でのニッチトップを狙う。

ゴードーはメーカー機能併せ持つ専門商社。有機溶剤・可塑剤の小分け充填、塗料・インキ・洗浄用溶剤やエタノールを主成分としたアルコール製剤、不凍液・ウインドウォッシュ液の受託加工などを含むOBM

(相手先ブランドによる生産)を事業の柱としながら、化学品・食品・産業資材関連分野の商材を取り扱っている。

オーツ麦の生産地はロシアを中心に北欧に多く、ブラジルやオーストラリアにも栽培地がある。国内では北海道で栽培されていたが、主に馬の飼料として利用されていたことから栽培が減少した。

オートミルクはオーツ麦にある水溶性食物繊維のベータグルカンを含む低脂肪・低たんぱく質



オートミルクパウダー 4月上市する  
ただ、冷凍保存が必要で保管に手間がかかることから、固形パウダー化への要望が強かった。

ゴードーは当初、O

で植物性の飲料品。大手メーカーが2020年にメニューに取り入れたことで、国内で人気が出始めた。21年秋ごろには飲料メーカーから製品発売が予定されている。

EMも検討していた。しかし国内ではオートミルクのメーカーが限られており、利益が確保できる食材であることから自社ブランドでパウダー化したものを販売する。原材料調達には国内で製造された商品を購入、委託事業者に依頼しパウダー状にし発売する。

今後、オートミルクパウダーを原材料として食品メーカーに販売して行く。1月に食品事業部のホームページを刷新するなど情報発信の結果、約10社から問い合わせがあった。なかにはベントフードメーカーや健康食品販売会社からの引き合いもあり、用途の開拓・拡大も視野に入れる。原材料調達ではコスト面を考慮し、海外輸入を含め調達先を探索する考えだ。